

西淀川で環境に配慮した 住まいづくりを目指す

西淀川から住まいと暮らしを考える
環境住宅研究会 [大阪府大阪市]

テーマ

住工共存のまちで 住民参加型環境住宅づくり

設立年月 2010年6月
メンバー数 8人
代表者名 松富 謙一
連絡先
〒555-0013
大阪市西淀川区千舟1-1-1
あおぞらビル4階 あおぞら財団内
藤江 徹
tel 06-6475-8885
fax 06-6478-5885
e-mail webmaster@aozora.or.jp

わたしたちについて

かつて「公害のまち」と言われた大阪市西淀川地域において、産業構造や社会情勢の変化に伴い激変する住まいやまちの変化を読み解き、「住まいと暮らし」の視点から環境再生を目指します。

活動に至った理由や背景

本会立ち上げのきっかけは、2010年春より進められた地域交流スペース「イコバ」の開設でした。これは、あおぞら財団が所有するビルの1階ガレージ部分を地域住民と一緒に改修を行ったプロジェクトです。

活動のフィールドである大阪市西淀川区は、市内有数の工業地域として発展してきました。かつて高度経済成長期には、工場や自動車の排煙で数メートル先も見えないくらい空気が汚れ、「公害のまち」と言われた西淀川地域。しかし、近年は不況による工場の撤退・廃業により、工場跡地へのマンションや一戸建ての建設が進み、住宅地としての整備も進んでいます。昔からの集落や工場で働いていた労働者や家族が住んでいた共同住宅や長屋が残りつつ、その近くに高層マンションやカラフルな一戸建て住宅が建つなど、新旧の住宅と工場が混在する地域です。

そうした中で、変貌する西淀川の住環境を改めて捉えなおし、今後の地域、コミュニティの展望を踏まえ、都市部での環境に配慮した住まいづくりを目指し、「西淀川から住まいと暮らしを考える環境住宅研究会(Green)」を立ち上げました。2011年度は、新たな参加・協力者を募りながら、住民・事業者・行政・専門家たちと情報交流・調査研究等をしながら、具体的な住宅関連事業の推進体制づくりをめざして活動を行いました。



○まちあるきで西淀川を知る

最初に、現在のまちがどのようなになっているのかを改めて把握するために、区内の3つのエリア「姫島・姫里」「福」「野里・柏里」でまちあるきを行いました。

その際、「①街区の構成」「②建物」「③地域資源」「④まちのイメージ、今後の変化など」の4つの視点でまちを見ながらまわりました。

①姫島・姫里エリア 実施日:5月22日 参加者8人

姫島・姫里エリアは、尼崎と大阪を結ぶ大和田街道が残り、昔のままの街路が複雑に入り組んでいます。工場がなくなり宅地開発が進む一方、狭小宅地や奥まった場所では、空き家や空き地が点々としています。参加者からは「路地や街道など昔ながらの雰囲気は活かしたい」、「工場→住宅への更新スピードが早い」、「空き地や空き家はこれからどうなるのか?」といった感想がありました。

②福エリア 実施日:6月19日 参加者8人

福エリアは海拔0メートル地帯で、かつての漁村のまち並み、銭湯や祠、長屋や蔵が残っています。かつての大野川を埋め立ててつくられた緑陰道路が宅地よりも高くなっています。参加者からは、「水路や路地など曖昧な場所の雰囲気が楽しい」、「土地の高低差を活かした住宅づくりができないか」、「古い長屋や文化住宅に代わる新しい集合住宅ができないか」といった感想がありました。

③野里・柏里エリア 実施日:7月9日 参加者8人

野里・柏里エリアは、古くからの集落が発展してきた場所です。文化財としての価値も高い住宅や古くからの長屋、商店街、〇〇寮や□□荘などといった共同住宅、雰囲気のある蔵や板塀など土地の歴史を振り返ることができる一方、新たに建てられた現代風デザインの賃貸住宅やマンションが増えています。参加者からは「壁面や軒先の緑化が豊か」、「空き地は少なかった」、「立派な家が多い」、「路地を歩いて迷子になった」などの感想がありました。

このまちあるきには、昔から西淀川に住んでいる人、最近西淀川に引っ越してきた人、区外に住んでいる人が参加しました。西淀川に長く住んでいる人でも「初めて来た」という地区や場所があったり、いろんな場所があつて面白いといった感想がありました。



地図とカメラを片手にみんなで西淀川のまちを歩きました。地元の人にお話を聞いたりしながら、その地域のまちのつくりを紐解いていきます。見てきたことをみんなで振り返り、環境住宅の提案につなげました。

また、各地区とも路地が多く、歩いているうちに方向が分からなくなり、現在地を見失ってしまうような場面が何度もありました。路地や道路などで、昔のまちの作りが今もなお残っていて、新しい建物もどんどん建っている西淀川は、とてもおもしろい場所だと、まちあるきを通じて改めて感じました。

○提案づくり

次に、まちあるきの結果をふまえて、各エリアにあった住まいのあり方を検討し、長屋改修・集合住宅・新築一戸建ての3パターンでの住宅更新に関するモデルを検討しました。

①歴史的な資源を次代へ継承

一姫島・姫里エリアの改修事業

姫島・姫里エリアで長屋などの木造住宅を大切に使うために、居住性や耐震性を高める改修を行ってこうというものです。今回、実際に学生が行っている1邸の改修に携わり、アドバイスや作業の手伝いをし、活用方法について一緒に考えました。昔、祖父母が住んでいた長屋の一軒が空き家になっているので改修し、友達同士が集まって会食やギャラリーとして活用することを目標にしています。建築を学んだ学生達自身が、1階部分の壁や天井を取り壊し、改修を進めています。同長屋の隣近所の方に話を聞くと「この辺りも高齢化が進み、同じような空き家が増えている。新しく建て替えが進んでいる所もあるが、近所でも知らない人が多くなってしまった。空き家が増えてきて不安。」とのこと。こうした物件に対する改修モデルになればと考えています。

②曖昧な空間がゆるやかに繋ぐ生活

一福エリアの協調住宅

福エリアでよく見られた土地の段差を活かした住まいについて、共同住宅の提案を考えました。緑陰道路沿いに2階部分で隣接している家が多く見られたので、1階だけでなく2階からのアプローチを可能にし、バルコニーや屋上の緑化をして、緑陰道路の景観にあった住宅について考えました。参加者からは、緑陰道路の緑や昔ながらのコミュニティの雰囲気を感じさせる集合住宅のモデルになればとの意見が出ました。

③周辺環境やエネルギー効率に配慮した建替

一野里エリアの建て替えプロジェクト

野里エリアでは、長屋が個別に建替えられたり、接道要件を満たしていない老朽家屋が建て替えられずに残っています。今回、実際に地域の不動産屋さんから紹介いただいた、敷地が狭くて建て替えが難しい物件について、提案づくりを行いました。

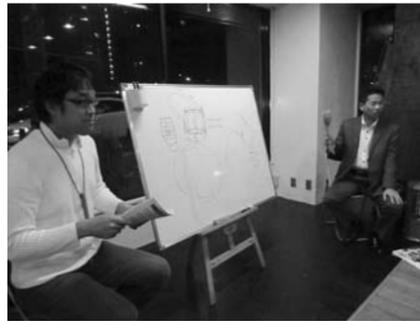
狭小宅地という制約に対しては、近隣と建築協定を結ぶことで解決する方法や隣接する建物と協調し、通風や採光を確保する方法などを提案しました。また、「緑」を多く取り入れたデザインとし、潤いのある街の環境を生み出しながら狭小宅地の課題解決を図る、エネルギー効率に配慮した住宅を提案しました。とはいえ、地域住民の方全ての同意が得られたわけではなく、近隣との合意形成の進め方が今後の課題として見えてきました。



「樹木を植えるように住まいを創ろう」をキーワードに、各地域の特徴にあった環境住宅の提案を、自然環境だけでなく、住まい方の視点も織り交ぜてつくりました。

提案づくりはみんなで意見を出し合いながら。建築家、工務店、研究者、環境NPOとさまざまな立場で意見を交わしました。





国内の林業家から、日本の林業の現状を聞きました。家を作る材料から環境について見つめることを深める契機となりました。



○Green Housing展を開催

開催期間：3月16日～3月22日
会場：あおぞらビル1階 あおぞらイコバ

報告会：3月17日参加者11人
会場：あおぞらビル3階 グリーンルーム
ゲスト：松下岳生さん（ランドスケープデザイナー、環境デザイン事務所 素地 (soji)）

新たに「家を建てよう」「改修しようかな」と心のどこかで思っている人に、住宅を通じて環境について考えてもらったり、「環境住宅にチャレンジしよう」と思ってもらうために、『樹木を植えるように住まいを創ろう Green Housing展』を開催しました。本展では、まち歩きや、西淀川の住宅環境を考えた環境住宅の提案などをパネルや模型で展示し、合わせて報告会を開催しました。



Greenの活動内容や提案をパネルや模型、ハンズオンなどのかたちで展示しました。実際に提案内容が立体的に見られることもあって、模型に興味を持つ来場者もいました。



○木の勉強会

家を建てるにあたって、使用する木材が環境に及ぼす影響について考えるために、まずは木材のことを知ろうということで、木材の勉強会を12月に開催しました。私たちが今まで知らなかった木材の知識、現状を知ることができました。また、新たな参加者や林業関係者とのつながりができました。

日本の林業を守りたい—国産材の現状

開催日：12月9日 参加者19人
講師：石橋輝一さん（吉野杉・吉野松の製材加工販売 吉野中央木材）、中井章太さん（吉野の山守 中神木材）

国産材編では、北欧からの輸入集成材（複数の木材の木目を同方向に平行にして接着した木材）が国産材に与える影響、地域によって、気候や地形だけでなく、山の所有形態などの違いから、林業のあり方が各地でさまざまであるとの現状説明がありました。

地域に合った林業をやらなければ、山を守っていくことはできないこと、林が荒れ、木が枯れ腐るとそこから二酸化炭素が発生することなど、環境と林業のつながりについて知ることができました。

より広い視点で木材を選ぶ—輸入材の視点から

開催日：12月12日 参加者16人
講師：宮崎豊さん（カナダツガ）

輸入木材編では「いま、なぜ木造建築か？」をテーマにカナダの木材事情について話を聞きました。冒頭、外材を排他することで、国産材を支援したり、補助金を出したりする今の流れは「攘夷主義型」であり、国産材、輸入材ともに広い視野で見えていく必要があるとの問題提起がありました。日本の森林を守るためにも、国産材を使用しようと言われているが、輸入材の良さをいかしながら、適材適所で木材を使っていくのがいいのではないかとのことでした。

今後の予定

今後の活動の展望として、やはり「西淀川区で環境住宅を建てる!」を目指しています。そのためには本格的な戦略が必要になってきました。いろんな人に話を聞くと、住宅のことで悩んでいる人がたくさんいました。「今の住宅を改修したいけど、何から始めたら良いのか?」、「息子家族と住みたいけど、うまく同居するための住宅ってどんなん?」、「太陽光発電や省エネ設備、環境にいいってどういうこと?」、「自分のライフスタイルに合わせた家がほしいけど…」、「引っ越したいけど」、「近所の空き家」などなど。こうした声と私たちの活動をどうすれば、うまくつなげていくことができるのか。

まずは、自分達の活動コンセプトを明確にした上で、PRし、具体的な事例を積み上げ地域の中で協働できる体制づくりを進めたいと思います。

まずは顔をあわせることから

現在、多くの住宅はハウスメーカーが建てており、建てる人と使う人の関係は薄れてきているように感じます。昔は付き合いのある大工さんに、「ドアの調子が悪い」「窓の立て付けがよくない」などの住まいに関する小さな悩みを気軽に相談できましたが、今はなかなかそうはいかないのではないのでしょうか。

そこでGreenでは住まいに関する悩みの相談を受け、住民と一緒に解決していく、いわば「住まいの御用聞き」的な役割を担い、その活動を通じて地域の人と顔の見える関係づくりをしていきます。

そのためにはGreenの活動をもっと地域の人に発信していかなければなりません。「環境住宅ってなに?」「Greenに相談したらどんなことをしてもらえるの?」といった情報を地域の人に伝えるところから、関係は築かれると思うので、まずは広報ツールとして団体の活動内容がわかるパンフレットやネット上での情報発信を進めていきます。

今後は家を建てたい人の相談にのって、悩みや不安を住民と一緒に解決する役割を担っていきます。改修などの実際の現場の見学会もそのひとつ。さまざまなかたちでサポートできる体制を作っていきます。



西淀川の「まち医者」になる

顔の見える関係づくりと並行してまちの空き家情報や住まいの悩みの収集を行い、「まちのカルテ(履歴)」を作っていく予定です。集めた情報やカルテをもとに、家に関する相談を受ける「まち医者」の役割が、これからGreenが目指すイメージです。住まいやまちについての情報提供—たとえば防災(耐震や、木造の防火)などのテーマで勉強会、相談会を開催するなど—を通じて地域の人の暮らしをサポートしたり、緑化、クラフト講座などを開き、Greenの活動について地域の人に知ってもらえるような機会も作ります。

活動としては、まず空き家や老朽化した建物の所有者へアプローチします。そして家の建て替え、改修の情報提供や、家の建築、建て替える際に利用可能な助成金の情報等、改修にかかる費用の仕組みなどの情報提供、空き家バンク的な機能も含めた役割を西淀川地域で担い、準公共的な立場で事業を進めていきます。また実際に家を見てイメージを実感できるように、見学を希望する人に事例紹介などの事業を行う予定です。事業を進めていく体制として、西淀川区を中心に活動しているあおぞら財団が地域の窓口となり、情報収集などを行っていければと考えています。

独立した事業の立ち上げに向けて

事業を行っていくにあたり、現在メンバーは別に仕事を抱えながら活動に参加している状態なので、将来的には独立して事業体を立ち上げることが目標です。方法としては現在参加しているメンバーや、協力してくれる住宅関係の会社等が出資しあって、事業体を立ち上げる協同組合方式という意見が挙がっています。地域住民のニーズと様々な専門家のネットワークをつなぎ、具体的に事業を展開していく体制づくりを進めていきます。

